

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第2区分
 【発行日】平成25年3月14日(2013.3.14)

【公表番号】特表2012-522578(P2012-522578A)
 【公表日】平成24年9月27日(2012.9.27)
 【年通号数】公開・登録公報2012-039
 【出願番号】特願2012-503473(P2012-503473)
 【国際特許分類】

A 6 1 C 7/14 (2006.01)

【F I】

A 6 1 C 7/00 B

【手続補正書】

【提出日】平成25年1月24日(2013.1.24)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

同一の歯列弓に設置するためのブラケットシステムに個々のブラケットを互換的に設置するように構成された、協調的な金属およびセラミック製歯列矯正用ブラケットシステムであって、

セラミックで形成された複数の歯列矯正ブラケットを含むセラミック製歯列矯正用ブラケットシステムであって、各セラミックブラケットが1つの歯列弓の中の選択された歯に設置するように構成され、各セラミック歯列矯正ブラケットが、

セラミックブラケット接着パッドと、

前記接着パッドから遠ざかるように頬側に延びるセラミック基部と、

前記セラミック基部に形成されたアーチワイヤスロットと、を含み、

前記セラミックブラケットが前記セラミックブラケット接着パッドの歯への接着面から前記アーチワイヤスロットの舌側底部までの間に画定される頬舌的スロット底部断面厚さを有するようなセラミック製歯列矯正用ブラケットシステムと、

金属で形成された複数の歯列矯正ブラケットを含む金属製歯列矯正用ブラケットシステムであって、各金属ブラケットが前記歯列弓の中の選択された歯に設置するように構成され、各金属歯列矯正ブラケットが、

金属ブラケット接着パッドと、

前記金属接着パッドから頬側に延びる金属基部と、

前記金属基部に形成されたアーチワイヤスロットと、を含むような金属製歯列矯正用ブラケットシステムと、

からなり、

前記金属ブラケット接着パッドから前記アーチワイヤスロットの舌側底部までの間に画定される、各金属ブラケットの頬舌的スロット底部断面厚さは、対応する金属ブラケットと同じ歯に設置するように構成された、対応するセラミックブラケットの頬舌的スロット底部断面厚さと略等しいことを特徴とする協調的な金属およびセラミック製歯列矯正用ブラケットシステム。

【請求項2】

前記セラミック製ブラケットシステムは、切歯と犬歯に設置するように構成されたセラミックブラケットを含むことを特徴とする、請求項1に記載の協調的な金属およびセラミ

ック製歯列矯正用ブラケットシステム。

【請求項 3】

前記金属製ブラケットシステムは、第一および第二小臼歯に設置するように構成された金属ブラケットを含むことを特徴とする、請求項 1 に記載の協調的な金属およびセラミック製歯列矯正用ブラケットシステム。

【請求項 4】

前記セラミックブラケットは機械加工されることを特徴とする、請求項 1 に記載の協調的な金属およびセラミック製歯列矯正用ブラケットシステム。

【請求項 5】

前記セラミックブラケットは、多結晶アルミナ、単結晶アルミナおよびジルコニアからなる群から選択される材料であることを特徴とする、請求項 4 に記載の協調的な金属およびセラミック製歯列矯正用ブラケットシステム。

【請求項 6】

前記セラミックブラケットは透明または半透明の多結晶アルミナであることを特徴とする、請求項 4 に記載の協調的な金属およびセラミック製歯列矯正用ブラケットシステム。

【請求項 7】

前記金属ブラケットは機械加工されることを特徴とする、請求項 1 に記載の協調的な金属およびセラミック製歯列矯正用ブラケットシステム。

【請求項 8】

前記金属ブラケットは、クラス 17 - 4 のステンレススチールとクラス 17 - 7 のステンレススチールからなる群から選択される材料であることを特徴とする、請求項 4 に記載の協調的な金属およびセラミック製歯列矯正用ブラケットシステム。

【請求項 9】

前記金属製ブラケットシステムとセラミック製ブラケットシステムは、上顎中切歯に設置するように構成された、対応するブラケットを含み、両方の対応するブラケットの頬舌的スロット底部断面厚さは約 $1.041 \text{ mm} \pm 10$ パーセントであることを特徴とする、請求項 1 に記載の協調的な金属およびセラミック製歯列矯正用ブラケットシステム。

【請求項 10】

前記金属製ブラケットシステムとセラミック製ブラケットシステムは、上顎側切歯に設置するように構成された、対応するブラケットを含み、両方の対応するブラケットの頬舌的スロット底部断面厚さは約 $1.219 \text{ mm} \pm 10$ パーセントであることを特徴とする、請求項 1 に記載の協調的な金属およびセラミック製歯列矯正用ブラケットシステム。

【請求項 11】

前記金属製ブラケットシステムとセラミック製ブラケットシステムは、上顎犬歯に設置するように構成された、対応するブラケットを含み、両方の対応するブラケットの頬舌的スロット底部断面厚さは約 $0.533 \text{ mm} \pm 10$ パーセントであることを特徴とする、請求項 1 に記載の協調的な金属およびセラミック製歯列矯正用ブラケットシステム。

【請求項 12】

前記金属製ブラケットシステムとセラミック製ブラケットシステムは、上顎第一小臼歯に設置するように構成された、対応するブラケットを含み、両方の対応するブラケットの頬舌的スロット底部断面厚さは約 $0.737 \text{ mm} \pm 10$ パーセントであることを特徴とする、請求項 1 に記載の協調的な金属およびセラミック製歯列矯正用ブラケットシステム。

【請求項 13】

前記金属製ブラケットシステムとセラミック製ブラケットシステムは、上顎第二小臼歯に設置するように構成された、対応するブラケットを含み、両方の対応するブラケットの頬舌的スロット底部断面厚さは約 $0.737 \text{ mm} \pm 10$ パーセントであることを特徴とする、請求項 1 に記載の協調的な金属およびセラミック製歯列矯正用ブラケットシステム。

【請求項 14】

前記金属製ブラケットシステムとセラミック製ブラケットシステムは、下顎切歯に設置するように構成された、対応するブラケットを含み、両方の対応するブラケットの頬舌的

スロット底部断面厚さは約 $0.524 \text{ mm} \pm 10$ パーセントであることを特徴とする、請求項 1 に記載の協調的な金属およびセラミック製歯列矯正用ブラケットシステム。

【請求項 15】

前記金属製ブラケットシステムとセラミック製ブラケットシステムは、下顎犬歯に設置するように構成された、対応するブラケットを含み、両方の対応するブラケットの頬舌的スロット底部断面厚さは約 $0.508 \text{ mm} \pm 10$ パーセントであることを特徴とする、請求項 1 に記載の協調的な金属およびセラミック製歯列矯正用ブラケットシステム。

【請求項 16】

前記金属製ブラケットシステムとセラミック製ブラケットシステムは、下顎第一小白歯に設置するように構成された、対応するブラケットを含み、両方の対応するブラケットの頬舌的スロット底部断面厚さは約 $0.762 \text{ mm} \pm 10$ パーセントであることを特徴とする、請求項 1 に記載の協調的な金属およびセラミック製歯列矯正用ブラケットシステム。

【請求項 17】

前記金属製ブラケットシステムとセラミック製ブラケットシステムは、上顎第二小白歯に設置するように構成された、対応するブラケットを含み、両方の対応するブラケットの頬舌的スロット底部断面厚さは約 $0.864 \text{ mm} \pm 10$ パーセントであることを特徴とする、請求項 1 に記載の協調的な金属およびセラミック製歯列矯正用ブラケットシステム。

【請求項 18】

金属ブラケットとセラミックブラケットの両方を含む協調的歯列矯正用ブラケットシステムの装着方法であって、

複数のセラミック歯列矯正ブラケットを含み、各セラミックブラケットが、接着パッドの歯への接着面から前記セラミックブラケットのアーチワイヤスロットの舌側底部までの間に画定される頬舌的スロット底部断面厚さを有するセラミック製ブラケットシステムを提供するステップと、

複数の金属歯列矯正ブラケットを含み、各金属ブラケットが、前記対応するセラミックブラケットのスロット底部断面厚さと略同じ頬舌的スロット底部断面厚さを有する金属製ブラケットシステムを提供するステップと、

ブラケットを装着予定の各歯について、前記セラミック製ブラケットシステムの中の指定されたセラミックブラケットまたは、前記金属製ブラケットシステムの中の対応する金属ブラケットのいずれかを選択するステップと、

前記選択されたセラミックブラケットと選択された金属ブラケットを、同一の歯列弓の歯に装着し、前記歯列弓が、ある歯の上には金属ブラケットを、前記同一の歯列弓の別の歯にはセラミックブラケットを有するようにするステップと、
を含むことを特徴とする方法。

【請求項 19】

前記セラミックブラケットが切歯と犬歯に装着され、金属ブラケットが第一および第二小白歯に装着されることを特徴とする、請求項 18 に記載の方法。